

持続可能な社会を実現するための県民行動とは？

～フットマイレージ・ウッドマイレージの低減～

△○□ ウッドマイレージ △△△

中間報告

1. 背景

21世紀を迎えて、地球温暖化対策が地球規模で考えられている。京都議定書による二酸化炭素排出量削減目標である6%(1990年比)削減達成のためには、今から14%削減する必要がある。

生産過程における消費エネルギーがアルミニウム、鉄、プラスチック等に比べて少ない木材は、再生可能な資源の一つでありエコマテリアルとしてその活用が注目されている。しかし、現在の日本の木材自給率は18.5%(H15年)と低く、滋賀県も同等である。

持続可能な社会の実現には、木材のようなエコマテリアルの選択が重要であると考えられるが、近年その輸送距離や輸送手段によって環境負荷が増加することが指摘されている。

また、京都議定書では森林吸収による削減率が3.9%とされており、滋賀県産木材の利用を促進することで周辺林産業界の活性化を図ることも検討事項の一つになる。

2. 協働部活の目的

滋賀県における木材の動向を調査し、滋賀県産木材の利用の可能性とその効果を探る。また、ウッドマイレージCO₂の指標としての可能性を探る。そして、県民行動につながるような指標の活用手法を提案し、滋賀県全体での二酸化炭素排出量の削減に寄与する。

持続可能な社会の実現は、分野にかかわらず共通のテーマである。しかし、その施策は各分野(各課)個別に検討されており、部局横断する課題解決にはいたっていない。今回、協働部活として取り組むことで、関係する課だけでなく、様々な活動をするNPO・事業者・団体・個人がひとつのテーマで課題解決に向けひとつのテーブルにつき、より実効性の高い提案を行いたい。

3. 2年間の事業計画

- 現状調査 : H17年度 県内で消費される木材の状況
- 可能性評価 : H17,H18年度 ウッドマイレージの指標を用いたCO₂排出削減の可能性
- 具体的事例検証: H18年度 制度化、具体化に向けた提言のための事例検証

4. H17 年度の活動報告

■ 現状調査

- ・ 滋賀県産木材の動向調査

- ・ 木材市場への聞き取り調査

> 市場A

特徴:今年度から県内国有林の伐採が活発化、地元業者に地域貢献として作業を委託する傾向あり。

> 市場B

特徴:冬季はマツに特化した市場となる。県外業者との取引多い。

- ・ マイレージ CO₂ 試算

5. H18 年度の活動予定

■ 現状調査

- ・ 市場Bからの詳細データよりマイレージ CO₂ 試算

■ 可能性評価

- ・ 滋賀県産木材利用の割合が増加した場合の CO₂ 排出量削減量

例)新築着工の住宅のうち、木造住宅の〇割が県産材で建築されれば、輸送にかかる二酸化炭素排出量は〇〇kgCO₂ 減らせる。

■ 具体的事例検証

- ・ 京都府へのヒアリング

例)京都府では、府内産木材のうち公共事業に使用するものについてウッドマイレージ CO₂ 表示を義務づけた。来年度以降、一般住宅にも範囲を拡大する予定。証明書の発行などは、NPO との協働が実現している。

- ・ 地域材活用住宅の仕組み

例)産地直送や、家づくりグループの組織化など、地域材を利用する取り組みが始まっている。その課題を整理しながら可能性を示す。

■ 課題整理

- ・ 制度化への検討
- ・ 指標表示の対象の検討
- ・ 実証実験